

「妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の推進」

事業の趣旨

子ども一人ひとりが健やかに成長することを目的に、保健師などの専門職がチームを組んで妊産婦とその家族の状況を継続的に把握し、必要に応じて関係機関と協力しながら、妊娠期から子育て期までの切れ目のないきめ細かな支援を実施することで母子保健の充実を図る。

○平成 30 年度の実施状況

(1) 産後早期の支援の強化

① 産後電話の実施（新規）

保健師・助産師等専門職が出産後早期にお誕生連絡票の届いていない産婦に電話し状況を把握する。早期のこんにちは赤ちゃん訪問につなげるなど適切な支援により、産後の不安を軽減しリスクの重症化を予防する。実績 232 件（4月～9月）

② 産後支援訪問事業の実施（新規）

産後、3～4か月児健診までの期間に育児不安のある母子を対象に、助産師等専門職が訪問。母親の身体的回復と心理的な安定を図り、産後うつ予防・早期発見・重症化予防、産後早期の不安を軽減する。また、母親自身がセルフケア能力を育み母子とその家族が健やかな育児ができるよう支援する。実績 7 件（4月～9月）

(2) ゆりかごむさしのフェスティバルの実施（新規）

市内在住の妊婦、乳幼児を子育て中の方を対象として、子育てを楽しめるきっかけを作り、相談機関としての保健センターを PR することを目的として開催。

○日 時：平成 30 年 7 月 8 日（日）午前 10 時～午後 3 時

○場 所：保健センター

○内 容：マタニティヨガ、イクメン講座、産後フラダンスなどのイベント、心理士、幼稚園教諭による講座「一歳児の世界を知ろう」「2人目育児講座」、常設展示「幼児食のヒント」「子育て中の防災グッズ」など。

○参加者：364 人

武蔵野市助産師会に委託。助産師の専門性を生かし、内容を充実した。

(3) 関係機関との連携強化

① 出産病院との情報連絡会や、武蔵野赤十字病院の周産期スタッフとの情報交換会を開催し、現状や課題について意見交換を行った。

② 関係機関と虐待予防の取り組みに関する研修会や連携会議を開催した。